

Launchers

模型飛行機クラブ会報

2005年2/6号

●2005年記録会は4月17日(日)水元公園(9:00~12:00)(300円HLGです)

●2005年記録会は5月22日(日)東大島公園(9:00~12:00)です!

長年、模型飛行機を続けていると毎年同じ様な繰り返しで、我ながら、よく飽きないものだと思います。たかだか3分飛ぶと、飛んだトンドと大騒ぎして、飛びすぎると心配でハラハラして、飛ばないと落ち込んで、これの繰り返しです。しかし、続けている人は、いずれも昔からやっている人ばかりですから、やはり、たまたま面白いのでしょう。又は、20年続けても呆れる程下手で、いまだに思う様に飛ばせないからでしょうか。

昨年来、ウィークデーの幕張公園に集まる模型屋は、大して飛ばないパチンコを、落ちて、おちても飛ばしています。毎日、これが何時までも、いつまでも続きます。ドンドン進歩して、すぐに終わってしまうのが怖いのです。時間は一杯あるのですから。フリーフライトばんざい。

これからの夏の期間はお休みの人もいれば、飛ばす所を探して頑張る人、少し狭いが小型機で楽しむ人と、それぞれです。この間は、ランチャーズの合宿とシンポジウム以外競技会は無いらしい、イベントもない。FF屋のお休みはない方が良いでしょう。

- | | | |
|-------|------------------|------------------|
| 記録会報告 | ①2005年2月記録会/HLG | ②2005年2月記録会/PLG、 |
| | ③2005年3月記録会/HLG | ④2005年3月記録会/PLG |
| | ⑤きしめん大会遠征記 | |
| お知らせ | ⑥平城京大会案内 | ⑦ランチャーズ合宿案内 |
| | ⑧航空シンポジウム案内 | |
| FFサロン | ⑨マックスマン・惨敗記・吉岡靖夫 | ⑩その後のUHLG |
| 雑談天国 | ⑪世界選こぼれ話 | |
| 編集後記 | | |

◆2005年2月記録会の結果(HLG/CLG)

2月PLG記録会報告

佐藤・・・②

昨夜からの雨の影響とくもり空の関係で参加者が5名と最低の状況でした。コンディションも最悪で風速(5~6m)もあり、タイム的にも最悪の記録会となりました。優勝は後半追上げた河田さんが久し振り(231秒)の勝利でした。2位は成長株の石引さん(214秒)でした。3位は長老(80才)の内山さん。4位はファイトマンの戸谷さん。メーカーは無尾翼の佐藤でした。

小型機は、風で吹き飛ばされて遠くに行くので、探すのに時間を取られて回収が苦労だったようです。多分数機は田んぼに落ちたままの機体もあるのでは・・・。

2月PLG記録・2月20日大宮たんぼ・曇り、気温3~7度・北北西の風3~7m/S、60秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計
1	河田	15	41	22	7	44	17	30	54	60	32	231				231
2	石引	7	29	19	41	52	53	33	29	35	20	214				214
3	内山	35	4	21	23	33	21	5	4	31	29	151				151
4	戸谷	19	5	14	32	24	5	17	15	18	5	110				110
5	佐藤	12	24	14	10	23	6	9	13	16	18	95				95

2月HLC記録会報告

1. 相沢、2. 平尾・・・①

強風下での記録会はオーバーハンドHLGに軍配が上がりました。翼が長く大きいアンダーハンドHLGは投げ上げが決まらず苦戦をしていました。オーバーハンドHLGで安定感のある石山さん、井村さんが1位、2位となり実力を見せつけたと言ってよいでしょう。

対照的だったのが室内機仕様アンダーハンドの石井満機で、強風で翼がしなるのかスパイラル癖から抜け出せず途中リタイヤでした。1分で場外に出る機体もある程風の中でしたが、結構サーマルもあり、回収もてこずるため過激な記録会となりました。次週の中部フリーフライトクラブのきしめん大会に向けて準備をしていた平尾さんは虎の子を回収できずちょっと残念そうでしたが、この機体は場外の公園事務所に届けられ、午後に無事平尾さんの手元に戻りました。

アンダーハンドHLG組みは強風用を用意しておく必要性を感じた記録会でした。2月記録会は前日の雨で足下が悪く、風もやや強かったので土手越えも出て、苦心の泥だらけ回収となりました。予報では太陽が出るはずが曇天となり、その分風もあり全体的に集まりは少なめ。とは言っても17名ですから十分な参加者でした。(以上相沢)

風の日の記録会は久しぶりで、過去に較べるとUHLGは風に強くなったとは言え、この条件でどこまで戦えるか注目していました。投げる時に翼を持って振り回す翼端投げは、横風にあおられると翼が折れて壊れる恐れがあります。その為、野球投げのように吹き込み投げ込むことが出来ず、少しでも風が弱まった時を狙って投げざるを得ないので、サーマルを狙うのは難しい。その為か、この日のUHLGは最高でも4位止まりでした。

ここ数年、参加人数も増えて、更にメンバーに変化があって若返りが進んでいます。15年程前の毎回5名がやっとだった当時とは隔世の感があります。記録会のある日はランチャーズの車が道路にずらり並ぶので、隔地駐車を極力守りましょう。

2月HLG記録・2月20日大宮たんぼ・曇り、気温2～8度・北北西3～7m/S、10投中7投の合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計
1	石山	55	60	60	54	45	60	29	60	44	55	404				404
2	井村	60	51	53	36	60	17	60	37	60	40	384				384
3	吉敷	33	31	24	60	60	54	42	21	60	60	369				369
4	春山	60	43	33	52	34	44	60	45	47	60	368				368
5	寺田	60	39	55	60	30	35	16	42	48	27	339				339
6	斎藤パ	60	12	51	21	52	36	52	45	42	33	338				338
7	吉田	60	43	27	35	1	60	52	29	43	41	334				334
8	小川	33	19	60	47	6	18	42	17	60	60	321				321
9	大八木	29	28	46	60	52	30	33	42	41	33	307				307
10	菅野	60	29	45	6	22	37	36	60	15	21	289				289
11	相澤	60	32	26	42	16	23	58	26	25	11	269				269
12	平尾	53	44	60	25							182				182
13	三俣	14	27	19	22	16	18	7	22	18		142				142
14	戸谷	13	8	15	5	22	4	13	9	5	17	97				97
15	石井満	10	9	23	25	6						73				73

◆2005年3記録会の結果(HLG/CLG)

3月PLG記録会報告

佐藤、相沢、平尾・・・④

くもり空でしたが、比較的コンディションが良く全体的に高タイムの記録会となりました。フラ

イオフはベテラン石井さん、常勝の河田さん、無尾翼機の佐藤の3人で決勝飛行の結果。優勝は河田さん(300+90秒)に決定。同タイムで石井さん(F2リタイヤ)が2位。3位は無尾翼機で久しぶりに上位に進出した佐藤(300+78秒)。4位は上位に定着した石引さん(296秒)。5位は新人の小嶋さん(289秒)。6位も新人の篠原さん(270秒)でした。以下省略。(佐藤)

今回、PLGで注目すべき記録が出ています。3位の佐藤さんが無尾翼機で互角に戦って、5MAX+78秒でした。無尾翼パチンコ機は宙返りする機体が多いのですが、今回の佐藤機は直線的に上昇、普通のパチンコ機と同じように帰り、滑空します。以前ランチャーズの会報に載っていたものと同じように見えたのですが、今回は上反角が全くなくフラットで、削り出しでつけたねじり下げのみでした。HLGでも試してみませんか??・・・自分でやれって?・・・今度。(相沢)

パチンコは、15年前に石井英夫選手が細々と、遠慮しいしい1人でHLGの競技に参加していました。現在ではパチンコは「1種目」として成立し大勢が参加者します。1つには、昔の若手・石井、佐藤、倉田、出口の各選手も年を取ったということなのですが・・。石井さんとこの話を話ながら感慨に耽りました。それにしても今のパチンコは作り甲斐もあるし、よく飛ぶ様になりました。

3月記録PLG 3月20日大宮たんぼ、曇り2~12度、風・北北西1~2m/S 60秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	総計	備考
1	河田	60	47	49	45	60	60	60	60			300	90	390	
1	石井英	50	60	58	60	56	60	60	60			300	90	390	
3	佐藤	57	32	21	29	60	60	60	60	41	60	300	78	378	
4	石引	60	37	42	53	51	60	60	39	60	56	296		296	
5	小嶋	41	60	36	35	53	60	42	56	60	43	289		289	
6	篠原	48	60	60	51	42	50	37	29	49	40	270		270	
7	内山	50	53	28	24	43	29	60	37	60	40	266		266	
8	吉田	28	18	26	17	57	60	42	46	40	60	265		265	
9	斎藤義	16	60	60	60	11	19	24	32	34	35	249		249	
10	戸谷	45	37	50	46	60	39	36	43	42	38	244		244	
11	乙川	60	39	12	16	29	9	38	33	23	22	199		199	

3月HLG記録会報告

1. 相沢、2. 平尾・・・・③

前回の強風下とは違い、穏やかなコンディションでアンダースローが有利との予想どおり。なんと、春山さんが7連続MAXを出し優勝。お見事!!です。10連続MAXもあったかも知れませんが飛ばしませんでした。(ランチャーズ記録会は10投中上位7投の合計タイムを競っています)

2位、3位は2秒落ち、3秒落ちで石山さん、大八木さん。いずれもオーバーハンドHLGでした。オーバーハンドも頑張っています。アンダースローへ意識的に移らない組はそれなりに若さを誇示しているようです。HLGを飛ばす楽しさのひとつに爽快感があります。この爽快感はどうもオーバーハンドHLGの方が大きいようです。体力に自信?があるうちはオーバーハンドで頑張ろう。(以上相沢)

この日は曇天でやや寒い気候ながら、比較的好条件の日。いつもの如く9時頃にはメンバーがそろい競技開始。その後も参加者はしだいに増えて、この日も22名と賑やかで、なかなかイイ。

2月から7/10投の記録が合算されて順位を決定しています。今回も大勢の参加者が争いましたが、春山選手だけは別格で7連続MAXと完全勝利でした。格が違う感じ・・・・。

* 全体ではUHLG勢が徐々に増えてきています。しかし、スタンダードHLGもまだまだ頑張っています。吉田、井村、大八木、石山、菅野各選手共好調で、UHLG時代が簡単に来るとは思えません。野球投げの現在の高度は、かつての「鬼の黒川」がいた頃(1980年まで)より凄い高度で、当時より高く上がっていると感じます。ダントツは菅野選手、競技の後も若さにまかせて投げまくってしま

たが、とにかく凄い。いやいや、これでないといけません。野球投げHLGが簡単に滅びるようでは、ランチャーズの25年の歴史が泣きます。「野球投げ」は力まかせに投げる、「翼端投げ」はコントロールで投げる、と差があるので「野球投げ」の醍醐味は格別です。パワーの有る人は止められないでしょう。

* 今週のトピックスは、相沢怪鳥の復活です。本当にドウシタノ!!! HLG、UHLG共にやたらと上がるのです。昔の驚異的な高度を取り戻して、皆んなは「何か怪しい物を飲んだ」と考えています。ランチャーズも「ドーピング検査」が必要な時代になりました。本人は「飛行機は軽さですよ」等と誤魔化していますが、この突然の変化はやはりあやしい。

そこでランチャーズは考えました。会長から情報が得られしだい「秘薬」(にごり酒?)を内密に会員に限り発売する事を考えます。但し、この秘薬が「密かに期待している方に効く」と考える人にはお売り出来ません。HLGが、より上がるだけを希望する真面目な人のみに発売を……。

* 石井満選手が先日の室内機HLG練習会で、華奢で投げにくい室内機が「27mの天井にとどいた」と言っています。それから考えると、屋外ではカ一杯投げられるので30mは出ている様に思います。そうでないとHLGの沈下率と合わないのです。HLGが30m、UHLGが32m程度と考えたいのですが、如何。

* UHLGでは、現在春山選手が抜きん出ています。今回も気象条件がさして良いとは言えない状態で、唯1人連続7MAXです。これには ①安定した優れた機体(70秒飛ぶ)、②安定した投法(素晴らしい高度)、③他人のいかなる言動にも動じない強靱な精神(あの髭が守っている?)が揃っていると言う事。HLGは結構メンタルな競技なので、上記3条件のどれが欠けても勝てません。競技の途中で機体を替えたり、投げが決まらなかったり、途中で「今日はアカン」と思ったりすると、テキメン落とします。アアア

3月HLG記録 3月20日大宮たんぼ 曇り 2~12度 風・北北西1~2m/s 10投中上位7投の合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	総計	備考
1	春山	60	60	60	60	60	60	60				420		420	
2	石山	60	60	48	54	59	60	57	60	60	59	418		418	
3	大八木	37	48	60	60	57	60	40	60	60	60	417		417	
4	吉田	41	39	50	47	60	40	60	60	55	60	392		392	
5	小川	33	48	40	57	46	60	60	43	57	60	388		388	
6	井村	59	45	60	41	53	60	38	41	45	60	382		382	
7	斎藤パ	40	51	44	60	36	60	60	58	46	46	381		381	
7	相澤	60	32	48	37	60	48	59	56	50	35	381		381	
7	宮辺	60	6	34	60	54	7	53	34	60	60	381		381	
10	平尾	44	55	53	47	12	37	60	47	60	42	366		366	
11	菅野	60	46	49	48	60	41	34	51	37	43	357		357	
12	石井満	60	12	60	43	26	45	38	60	49	33	355		355	
12	三田	41	26	56	38	46	60	60	49	43	28	355		355	
12	久保	49	32	42	41	60	46	34	38	60	57	355		355	
15	野中	52	36	40	44	0	46	60	29	60	29	338		338	
16	寺田	60	24	30	53	34	58	14	51	39	34	329		329	
17	今関	37	34	37	15	33	49	36	50	48	47	304		304	
18	三俣	34	34	24	30	57	35	45	26	46	24	281		281	
19	吉野	30	21	19	60	33	17	42	19	14	24	229		229	
20	戸谷	26	19	28	31	20	35	30	48	22	30	228		228	
21	平林助	47	28	37	17	23	23	2	19	10	29	206		206	
21	平林幸	43	34	19	19	23	13	13	28	37	22	206		206	

◆2005年・きしめん大会遠征記

平尾・・・⑤

2月27日、ここ数年は好天に恵まれて盛会との情報にだまされて、三重県鈴鹿田んぼで開催の「きしめん大会」に遊びに行ってきました。

* 行き帰りはJRの電車賃割引制度を利用して行きました。東京から3時間弱で四日市に着くのでラクチンです。地元の足は怪物・伊東選手を脅迫して送迎付きです。

費用は「ジパング倶楽部」(65才以上で入会可能、年会費3千円で30%割引)の利用で運賃+新幹線で往復15,000円でお釣りが来ました。出来れば前日練習したいので電話で問合わせたところ、四日市では前日の練習はなしとの事。結局、午後2時半新幹線で出発としました。

名古屋まで2時間、8分の待合わせで関西本線に乗り換えて約30分、午後5時前にはJR四日市駅に着きました。

* 宿泊施設はインターネットで調べると結構混んでいて、4,000円弱のホテルは満室の由。

比較的キチンとしていて、且つ安い。「四日市アーバンホテル」(4,930円・税込、朝食付き)を予約。場所は近鉄四日市駅のすぐ側で繁華街の真ん中。部屋は小さいがバスユニット(嬉しいことにウォシュレット付き、バスもやや大きい)空調完備で、到着時に現金払いをすると暗証番号が決まって部屋の出入りは自由となる。但し、朝食無しでも割引きなし。面白みは無いが気楽ではある。1階に食堂があり、到着時のコーヒーは無料と言うのもめずらしい。

* 四日市市は市制になって100年を過ぎている古い市で、現在の人口30万、公害で有名になった工業都市である。しかし、JR四日市駅前前は閑散としていて寂しい。タクシーがパラパラという店舗等もまばら、お茶を飲む店もなく、自動販売機のみがたより。

駅直角にある広い道路をまっすぐ歩いて、近鉄四日市駅まで徒歩15分は意外と短い。ホテルまで行ってみると周りは繁華街である。但し、30万人都市にしては街はガランとしていて寂しい。

夕食を取るのに小綺麗なレストランを探したが見つからず、すぐそばの近鉄ビル9階の食堂街で我慢する事にして「とんかつ」屋に入った。とんかつ+生ビールで1500円はまずまず。結構柔らかくてうまいトンカツ、店員も美人とまではいかないが可愛い子(その他におっさんが1人)がいて、応対もテキパキとしていて合格である。その後、街の見学に出かけたが、飲屋街の呼び込みの多さにビックリ、歩く客がいないので気の毒なぐらい。企業都市・四日市は交際費節約で苦戦しているのが、ありありである。

近くに比較的大きな本屋と喫茶店があったが、都市のステータスシンボル・「スターバックス」はない。近鉄ビル1階の食料品店は沢山あって立派。果物からお菓子、出来合のおかずも豊富で大抵の物は揃うが、客が多いので気後れがする。この街はそこそこに地方色もあって良い。近鉄駅周辺には結構きれいな女の子があちこちにたむろしていて気になった。しかし、もうムラムラする年ではないので、詳しく調べる努力もしなかった。外は寒いし短時間では四日市の理解を深めるには至らなかったのは残念だった。

* 翌日朝、伊東氏に迎えに来て貰って10年ぶりに鈴鹿の飛行場に行ったが、狭くなったとは言えHLGには十分な広さである。田んぼは凍結して固く、長靴がグチャグチャになる事も無く、帰りに掃除する必要もなくほっとした。

現地に着いた時すでに、やや風があり、しだいに風が強くなるのか止むのか気をもんだ。HLGは別として他の種目に、どう影響が出るかが心配だった。結局はしだいに風が強くなったが、呼吸をしていたのでHLGは参加者8名で競技を実行。しかし、この風は翼端投げにはやや不利で、結局は野球投げにやられた。

とは言うものの、私としては中部関西のHLGやと知合えたので十分に楽しかった。中部関西勢の戦闘能力は十分あるが、関東ほど選手層が厚くないので機体の情報は少ないようだ。その意味でも私の参加は多少の刺激になった様に思う。伊東選手がいるが、翼端投げの取得高度については、彼が投げたのでは「例外」と見られる可能性がある。しかし、普通人の私の翼端投げは参考になったと思う。野球投げと較べると圧倒的な高度を取るのだから、翼端投げにムラムラして来ないのは変態である。この日の伊東選手が駄目だったので自分で言うのも何だが、この日の高度ではNO.1だったと思う。但し、気流のせいではたかれる事も多く、記録は残念ながら延びなかつ

た。1回飛ばすと風で700m前後飛ばされるので、風の強い中15km程田んぼを歩くことなり、寒さも加わって相当に足にきた。

* 競技は、ひげの園田選手が優勝、なかなかまとまった機体であった。2位は大人しい田根選手、モタモタした印象だが意外とやるんだ。3位はお情けで平尾、きしめんを貰った。

肩の良い中川選手、様々な機体を試作中の小柄な小笠原選手、ベテランになってきた生駒選手、関東にも来ている鷺見選手、この日翼を止めるネジを忘れてガタガタになった伊東選手(朝9時間で待って、近所の自転車屋までネジを買いにいった)とけっこう居るので、今年6月の平城京大会は楽しみである。

* 風が穏やかだった朝方に練習のウェークが飛んでいたが、しだいに風が強くなり、他の種目は3ラウンドに短縮して成立したようだ。風で飛ばすには度胸がいり棄権が多いのかと言うと、そうはならないのが模型飛行機屋のさが。中止した人は少なく、折角なので皆んな飛ばした様だ。

* 無事午前中で競技も終わり、帰りも駅まで伊東氏にJR四日市駅まで送ってもらった。割と便利良く名古屋まで行けた。相当草臥れていたが、うまく出来ているもので新幹線に乗るまで体力が保った。しかし、新幹線の席に座ってほっとしたのか、すぐ足がつた。必死で揉んだがなかなかほぐれず、痛かったの何の、その後3日間は痛かった。(追記:HLGの順位表のみ掲載)

05年きしめん大会HLG級記録 2月27日、三重県鈴鹿市池田町田圃・曇天・風3~6m

順位	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	合計	参考
1	園田	29	60	60	35	50	60	20	60	290	
2	田根	59	49	41	28	60	60	—	—	269	
3	平尾	35	60	50	31	38	60	42	27	250	UHLG
4	生駒	34	34	30	56	60	60	31	17	244	
5	鷺見	39	19	23	41	60	41	60		241	
6	中川	25	49	60	34	24	60	18	32	235	
7	小笠原	53	36	25	19	51	54	22		219	
8	伊東	30	29	32	30	26	51	35		178	UHLG

お知らせ

● 2005年平城京ライトプレーン競技会(旧来の松本杯)案内

⑥

1. 主催 京都フリーライトクラブ
3. 開催日時 2005年6月5日(日) 午前8.0受付、開始9.00
4. 開催場所 奈良県奈良市・平城京公園
2. 競技種目 HLG、PLG、ライトプレーン、ミニクーブ
6. 参加費 500円、少年は無料
7. 申込み 当日、現金と飛行機を持参の事。
8. 競技方法 9~11時の間に3回飛行、満点の競技者は決勝飛行に進む。11時15~30分に2分MAX4回目飛行、通過者は11時45分~12時の間に3分MAXの5回目の飛行、複数の競技者が残った場合は再度飛行する(HLG、PLGは除く)。
通常競技は
①ライトプレーン・60秒MAX3回
②ミニクーブ&混合級・60秒MAX3回
③HLG・60秒MAX、10投中の5投
④PLG・60秒MAX、10投中の5投
9. 規定等 ①ライトプレーン・翼幅45cm以下、但しA級の市販キットはOK
②ゴム重量5g以下、
③手投げのこと

④使用ゴムは1 / 8 インチ、長さ1 mまで又は3 g 以下とする。棒は1 5 c m以下で補助固定装置は不可。

8. その他 詳細については、主催者に問い合わせください。又は、インターネットホームページ・「ランチャーズ」を参照。

10. 追加 当日は禁酒、禁煙を旨とす。何か美味しい物を持参のこと。

●2004年ランチャーズ合宿のご案内・飛行場のお知らせ ⑦

8月6日(土)合宿の集合場所は今年も茨城県櫻川(欽ちゃんの野球チームがある所) です。まだ場所を知らない参加者には案内図を送ります。場所は平地で1,400 m×700 m程あります。

昨年は豆科の低い植物の種が蒔かれていたので、多分今年も膝までの草が一面に生えている程度でしょう。敷地への進入は風向きや場所によって工夫をしないと入れません。但し、全体の見通しも良く、機体の回収は徒歩による直進がベストです。

宿舎から飛行場まで利根川沿いに約1 5 K m程です。宿舎に直行の方は下記の「もとの荘」においで下さい。電車で来られる方はあらかじめご連絡下さい。

当日、FF 討議をしたいことがあれば企画したいのでご連絡下さい。又、このチャンスに各自自分のノウハウをご開陳ください。競技等はなくフリーです。存分に練習なりダベリングなりやして下さい。宿泊施設は千葉県営老人福祉施設ですので、住んでいる場所に関係なく60歳以上は割引ですので参加費に差を付けました。体力に自信のない方もぜひご参加して飛行機話しを肴にして飲みに来るだけでも大歓迎です。

1. 開催日時 **2005年8月6日(土)、7日(日)**

6日午前7時-7日(日)午後3時まで

2. 開催場所 茨城県櫻川村甘田(案内図を送ります)

3. 集合場所 同 上

注: 足の無い方は事務局までご連絡下さい。

4. 宿泊場所 千葉県老人休養ホーム「もとの荘」(案内図別添)

(和室16室収容人員72名) 駐車場あり。

千葉県印旛郡本埜村滝878 (JR成田線小林駅下車)

Tel . 0476-42-4126

5. 参加費用 8,000円/1人(但し、60歳以上は7,000円)

但し宿泊日の夕食を含む(アルコールと朝食は別途) 参加費は当日徴収。

6. その他 競技はありませんので、各自練習調整等思う存分やってみてください。但し、希望があれば企画します。(夕方6時までOKです)

7. 締切日 予約はインターネットや電話でもけっこうです。7月末までにご連絡下さい。

8. 連絡先 千葉市美浜区真砂3-9-6 平尾 Tel、043-278-0296 (FAXも同じ)

●2005年航空シンポジウムの案内 ⑧

1. 開催日時 **2005年8月20日(土)** 午後1時-4時頃まで

2. 開催場所 新橋航空会館 港区内幸町

3. 発表テーマ 未定

2月16日(水)

東京は雨。タクシーに家の前まで入って貰う。新宿のホームで電車を待っている間が寒かった。成田のチェックインは問題なし。ただしゲート41 迄約1km歩かされた。

14:40 ゲート41へ。暑い。

15:40 Boarding 開始

16:10 Gate off

16:27 Take off

8:35 Landing on

LAは晴。入国審査に指紋採取と顔写真撮影が加わり時間が掛かる。問題なし。Baggage Claimに着いたのは大分経ってからなので荷物はすぐに手元に。モデルボックスにはFragileのステッカーが何枚も貼られていた。税関で中身を聞かれたがそれだけでパス。

Door to Door ShuttleでMonroviaのBob Whiteの家へ。再会を喜ぶ。二人とも元気だ。Jeanは耳が遠いようだし私の発音では分かり難いようでBobが仲介してくれる。土産にYSF30年誌と信楽焼の蛙を進呈する。蛙は以前訪問したとき玄関の前に大きいのが鎮座ましましていたので仲間に入れて貰うために機内持ち込みで運んできた。無事で何よりであった。両方とも喜んでくれる。

昼寝をする。3時半起床。Bobはこのごろヴィンテージモデルに凝っているようだ。どれもが実に正確でかつ美しい。チェコ人設計の1954年モデルの写真撮影する。

5時過ぎにレストランに行く。ステーキディナーと言われたが、Bobの健康を心配してシーフードにする。ポテトが多い。帰宅後、芙美子に電話。シャワー。天気予報では明日は雨。



2月17日(木)

明け方ぐっすりしたため5時半にBobに起こされ

る。6時10分、Lost Hillsに向けて出発。オレンジジュースと紅茶をテルモスに入れたのを車に。Jeanは喘息気味で息をぜーぜーしながらもよく動く。そして良く気が付く。MAXMENのロゴの入ったトレーナーを誕生祝いとしてプレゼントされる。早速着用。車は5号線に入り一路北へ。途中までは何回かTaftに行くのでお馴染みの道だ。そのTaftへの道を通り過ぎたところから霧のため視界50m位になる。ノンストップで2時間半走って私の宿泊するLost Hills Motel 6に到着。予約の確認をする。ここで明日から飛行場へ同乗させてくれるCameron Ackerleyに会う。カナダの医学博士だ。Lee Hinesとも再会。

飛行場には約15km位というところか。しかし入口から未舗装の道を延々と走る。既に20台くらいの小型車からトレーラーまで様々な車が駐車している。レストランも開業している。広い。とにかく広い。地面は草に被われている。靴が濡れる。スニーカーは失敗だった。色々な人に会う。箱を持ち出し、まずは倉田さん寄贈のCLGを飛ばす。Bobが誉めてくれる。次いで柏谷さんのペーパープレーンを飛ばしたがこちらは草の水分を吸って柔らかくなってしまった。F1Hは2回フライトを試みる。1回目のDT落下は急過ぎて危なかったが無事。BobはFIGのテストフライト。1回目はゴム切れで上昇がいまいち。2回目はオーケー。でも翼が紙貼りなので湿気に弱いので競技をするかしないかは天気次第といっている。

車の中でスープとビスケットの昼食。食後、他の機体のテストをしようと組み立て中に雨。急いで片付ける。

Seattle在住のMike Robertsにモーテルに送って貰う。箱はBobの車に置いたまま。

夕食はDenniesでSuper Bird Sandwichを。レストランはここしかない。粗食の旅行になりそうだ。コンビニでビールとビーフジャーキーを仕入れる。

Cameronのルームナンバーを忘れる。フロントでは教えてくれない。電話は繋いでくれるが不在だ。



明日の朝連絡しよう。

2月18日(金)

F1H 競技日。6時起床。コンビニでパンとヨーグルト。\$1.64。スプーンを貰うのを忘れたのでプラスチックコップを切り開いて代わりにする。吟味しないで買ったパンは表面に砂糖がまぶしてあるアメリカ人の好きなやつ。糖尿病になるはずだ。Cameronに連絡がつく。8時45分に部屋に行く。飛行場入口に着くと車が立ち往生している。雨でぬかるんで入れないらしい。Cameronが様子を見に行く。長い時間車の中で待つ。やがて帰って来たら少し先の別の道から入る。左右に滑りながらも漸く辿り着く。

雨と晴れが交互にやってくるおかしな天気。Kochkarevが練習をしている。バントで30m位高度を稼いでいる。Stamovがニューモデルを見せに来る。4個のサーボを内蔵しておりひずみゲージでフックのテンションを検出してラッチを外すか閉じるかを制御している。何れサーマルセンサーを機体に装着してワイヤレスで送って来るようになるであろう。ここまでくるとFFの概念から外れていると言わざるを得ない。でも世界の趨勢はこちらに向っている。F1A, Hは機械式ではもう勝てないであろう。

12時競技開始。曳航準備をしていたら雨が降ってきた。機体が濡れる。雨中で曳航そして発航したがピッチングを起こし76秒。水平尾翼が雨で重くなったのが原因であろう。Bobがバイクで拾ってきて肩をすくめる。彼はFIGを飛ばすのを諦めた。雨の中では紙の翼では競技にならない。でもポリエステル翼にする気はないようだ。彼の機体は昔のままでメカらしいものは何もついていない。DTタイマーが粘性流体式に変わった位だ。何故VITや可変ピッチプロペラを使わないのかと聞くと必要を感じないからという答え。確かに競技会で好成績を挙げているので必要無いのかも知れない。

雨が止んだのでテストフライトをする。問題はないようだ。以後の4ラウンドは120s。3Rが一番の上昇。4Rは勢い余って宙返りをしたがサーマルキャッチ。世界チャンピオンがタイマー、助手、拾い屋の3役をしてくれる。贅沢だ。それにも関わらず不注意で成績がいまいち。申し訳ない。

フライオフ。各カテゴリー一斉ではなくFIGから順次行う方式。GもB並みに垂直上昇して目測だが80m以上上がるのが殆どだ。HではKochkarevのタイマーになる。4分悠々クリヤー。4分以上のフライトは目が追いつきそうもないので辞退する。

薄暗くなった中をモーターへ。Arbyでチキンバーガーと唐揚げを買って部屋で黙々と。佐びしい。

2月19日(土)

7時に出発。雨と風。果たして入口に車が数台。中で立ち往生した車があるようだ。Bobの大きなキャンピングカーが中から出られるか心配になってきた。でも正規の入口から入り草の上を通過して何とか辿り着く。競技は30分遅れで開始。Ackerleyのタイマーになる。Bobは拾い屋を。双眼鏡が見にくいので苦労する。風で揺れるためか。4Rで風が強くなり競技は中断。30分後再開。でも結局5Rでこの日の競技は終了する。それにしても猫の目のように変わる天気だ。Ackerleyは5マックス。彼は左利きなので左手で投げるように機体のタイマーなどが反対側に付いているし、ゴムは右手で反対に巻いている。

夜のBanquetにBobとJeanそれとCameronも出ないのでPiserchio夫妻に私を運んでくれるようにBobが頼んでくれる。それにしてもWhite夫妻は面倒見が抜群でまた気がよく付く。USA TeamのTシャツを5枚購入したら早速Jeanが丁寧に畳んで袋に入れてくれるし、水は？ジュースはと矢継ぎ早に聞いてくる。

私が日本人と分かるとShigeru Kanegawaはどうしているときく人が非常に多い。F1Cフライヤーとして傑出しているのと人柄のせいであろう。嬉しいことだ。

泥道をよろけながら、時に草地をジェットコースターの如く上下しながらモーターへ。駐車してある車の殆どが泥だらけだ。カーウォッシャーが繁盛して喜ぶであろう。

America's Cup Award Banquetに出席して驚いたこと。その1。会場の壁に写真が何枚も貼ってある。Bob Whiteのも3枚あった。前にBill Hartellが出したFree Flight Reviewに掲載の写真がある。大半がモノクロであるが正面左側にカラーがある。近寄ると我が小堀さんのMAXMENでのスナップではないか。よく出してくれたと感激をする。そこへJohn Davisがきてカボーリ(アメリカ人はコボリではなくカボーリと発音する)が優勝した時の話をする。Bob & Connie Piserchioを呼んできて披露する。他にも何人かが集まってくる。カボーリを知る人が多いのに驚く。MAXMEN 14Rで優勝するのが如何に大変でかつ偉大であることを知らされた。

その2。表彰式の冒頭、まず紹介したのは10代のフライヤーだ。起立したのが15人位いた。女の子も混ざっている。昨日のFIGでフライオフに残った男の子もいる。ジュニア世界選手権に参加する選手もいる。10代フライヤー皆無の日本の現状を考えると何とも羨ましい限りである。帰りの車でPiserchio夫妻にこのことを話したら5年程前から若年層が増え

てきたとのこと。この背景には調整済みの完成品が価格はともかくとして入手し易くなっていることが挙げられよう。子供が一から自作をして競技会出場に耐えられるような機体を仕上げるのは難事業だ(大人でもそうだが)。

日本でも篤志家により模型飛行機教室が開かれ、それなりに成果を挙げているが、その大半は「作って飛ばす」を目指しているようだ。しかし、ライトプレーンといえども「飛ぶように作る」のは子供や初心者にとっては難しくその段階で先に進めずに諦めてしまうことが多いであろう。むしろ主催者が作って調整をしてある程度飛ぶことを確認した機体を飛ばさせてやることも考えるべきではないだろうか。

考えることの多い一日であった。

2月20日(日)

今日も Cemeron のタイマー。4Rはピッチングに入り残念。5, 6Rは調整し直してチャレンジ。DTが5秒位早く作動するも十分な高度をとっていたのでマックス。ところが7Rでまたまたピッチング。パーフェクトを達成するのは難しい。

タイマーの間合 F1A,B を見学する。驚いたことにAでは7才の男の子が引いている。流石にサークリングはしないがバント発航がそれなりにキマッてい



る。10年もしたら良いフライヤーになるであろう。中学生位の女の子もBを飛ばしている。

それにしても F1A は旧ソ連系モデルだけ。タイマーには Roger モデルを使っているだろうが変わり映えない。F1B は Andriukov モデルの正統派か亜流のオンパレードだ。儲かっているのは旧ソ連系モデラーだけだ。Bob が彼等は半年しか仕事をしていないと皮肉を言ってたっけ。しかし、Andriukov もこけてしまった。やはり14Rは大変な競技だ。

なお F1C では前折れプロペラを堂々と使用していた。FAIでは禁止することになっているのに。

倉田さんから頂いた CLG (catapult launched glider 日本では PLG、pachinko launched glider と呼んでいるが) 広い場所なのでおもいきり飛ばしていたら Lee Hines が Perfect! と賞賛したので進呈する。彼は大型のDT付きのCLGを飛ばしていた。

F1A のフライオフが2人、Jim Parker が優勝、B が6人、Cが12人(!) 途中で大雨、車に避難したので結果は分からずじまいとなった。

Cameron の車で3日間運んで貰った。私の MAXMEN は終わった。感謝の握手。心配だった Bob のキャンピングカーも現場を脱出できたようだ。モーターに戻ると駐車スペースに停まっていた。ここで夜を明かし明日7時に出発の予定だ。

2月21日(月)

コンビニで昨日とおなじブルーベリーマフィンとヨーグルト、それにモーターのただのコーヒーの朝食をして Bob の車に。7時スタート。最初は雨は降っていなかったが途中から激しく降り出す。5号線の峠に近いピクニックエリアで止めて污水处理を行う。夫妻がジャンパーを着て外に出る。ホースを車に取り付けて排出させている。やり方が分からないので手が出せない。雨はますます激しく視界も悪い。Bob のハンドル捌きは慎重だ。10時過ぎ White 家へ戻ったときも雨は止まない。荷物を家に入れて一休み。食事をしに Dennies に行くというので当然昼飯と思い、ディナーは私に招待させて頂きたいというので快く承諾してくれる。ところが2時頃出発するからそれまで昼寝でもしているという。そこで約1時間ほど寝て起きていたらその間に泥だらけのバイクを綺麗に洗っていた。80過ぎとは思えぬタフさ加減だ。2時半に出発。スーパーに寄って貰いお土産の定番たるカレー向きの長い粒のカリフォルニア米を購入。Dennies に着いたのが3時過ぎ。どうもこの時間に昼飯とすると夕飯は何時になるのかなど? が湧いてくる。そこで支払いをすると「Thank you for dinner.」。矢張り昼夜兼用の食事だったのだ。払って良かった。そういえば彼等の食事は朝、昼は軽く

済ませていたのだ。雨中を帰る。帰ると又晴れる。すると夏の空が。

家中に写真が飾ってある。Jean が説明してくれる。もう曾孫までいる。家族と過去を大事にしている。ところで明日の Shuttle の予約を頼む。8 時で良いと思ったら、フライト時間を聞いてきて 11:15 という交通渋滞が予想されるので 6:45 に来るといふ。やれやれまた早起きしなけりゃ。



2月22日(火) 23日(水)

5時30分起床。朝食を頂く。トースト、バナナ、ジュース。6時30分、Shuttle 来る。再会を約し車中へ。LAX7時45分到着。料金チップとも\$45。チェックインは簡単。でもセキュリティチェックは厳重。靴まで脱がされる。無事通過。預けたバッグとモデルボックスを抜き取り検査で壊されないか心配だ。チョコレートなどを買う。

10:30 Boarding 開始。ものものしい。

11:16 Gate off.

11:38 Take off.

15:40 Landing on. (23日)

荷物が出てきた。ボックスが箱の中に入っている。取り上げると蓋の部分が壊れている。どうするところという壊れ方をするのか？一番上にあった胴体から垂直尾翼がもぎ取られている。係員に掛け合っても壊れても賠償請求をしないとの署名をしたうえで預かったのが責任は負いかねるとの定番的な返事。ガムテープで応急措置をして帰宅。ここまで素晴らしい旅行だったのに、最後の最後にケチが付き後味が悪いものとなってしまった。

追記 競技会の成績が SCAT EN で分かった。各種目3位までの入賞者の名前とフライオフ進出者数/エントリー者数を記す。

F1A

J.Parker, J.Nyhegn, R.Sifreet 2/36

ジュニアエントリー者数 9

F1B

A.Brdo, P.Ruyter, Evdokimov 7/44

F1C

R.Archer, R.Simpson, A.Gunder 12/23

F1G

Gorban, Crowley, Tymchek 11/23

F1H

Kochkarev, Stamov, Van Nest 10/17

F1J

Watson, Warren, Spence 12/13

■ その後のUHLG

平尾・・・⑩

UHLGは各選手が個性的に完成して、昨年来毎月の競技で普通に使われている。UHLGの開発が一段落して、最近ようやく余裕を持って他選手の観察が出来る心理状態になった。そこで誰がどの様なUHLGを、どう飛ばしているかの報告である。

1. 投げ方について

現在ではUHLGの投げ方には2つのパターンがある。1つは春山選手のように、やや水平に投げ出して高速で右旋回上昇しながら素直に滑空に入るパターンである。他は平尾がやっている様な、ほぼ垂直に投げてコロッと返す形である。

どちらが優れているかと言う事ではなく、それぞれのUHLGの設計と調整方法によって、この差が出ている。春山、吉敷、下田の各選手以下、ほとんどの選手が右旋回上昇パターンであるが、さらに細かく分けると1回転する選手と、主として腕だけで投げる選手に別けられる。しかし、圧倒的に高度を取るのには、速度がつけ易い走りながらの1回転投げである。最近の練習では下田選手がすばらしい。決まった場合は高度30mを超えている様に思うに思うので、これから始める人には1回転投げの取得を勧める。垂直上昇型は上向きに投げるので身体の回転が使いにくい点で、発射速度ではやや不利である様に思う。いずれにしろ、大きな機体が豪快に上昇する様は、野球投げと違った、これまでにない魅力がある。しかし、風のある日は慎重に投げないと、翼が折れる恐れがあるので、要注意である。

2. 機体の大きさと形

HLG規定の「スパン90cm、機体重量80g以下」のシバリがあるので、各選手とも最大でもスパンはおおよそ85cm付近に落ちてきた。この大きさだと91cm定尺の板から取れるので、経済性と作りやすさ、及び機体重量からベストと考える。形はなぜか、作り難いのに圧倒的に多段上反角主翼+V尾翼+下面垂直翼・機が多い。スタンダードな2段上反角機は平尾のみであり、これは意外である。

試しにスパン90cmの機体を作ってみたが、板も半端になるし翼の重さのみならず、胴体が長くなる等、重量80gに押さえるのは困難であった。軽量化をねらって翼弦を狭くして作ると、翼面荷重が大きくなって滑空では不利になる。それでもスパン90cmの機体を作りたいのであれば、現在名古屋の伊東選手が使っている組翼にする等工夫が必要である。これらの事を考えると現在のHLG規定はなかなか適正な値であると思う。

狭い場所用に小型の翼端投機を作るのであれば、それなりに価値があるが、70cmクラスの機体は入門機としては良いが、競技機としては中途半端であると思う。しかし、70cmスパンの機体で強度を十分に取って強風用として使うのであればメリットがある様に思う。いずれにしろ、スパンが70cm以上ないと上昇スピードが稼げないので勧められない。

3. 指掛け用のフックの有無

現在は、指掛けフックを付ける選手と、サンドペーパーグリップのみで投げる選手がいる。指掛けフックとして4φ×40mmの棒が翼の上下に突き出しているの、抵抗になるとの考えから、これを嫌う選手も居るようであるが、この程度では滑空には影響がないと断言してよい。要は投げやすいか否かにかかっている。握力が弱い人には指掛けがないと、機体がすっぽ抜けて高度が取れない。投げに慣れてくると、しだいに凄い力で投げるので、フックを付けるにしろ付けないにしろ、翼強度は考える以上に必要である。

サンドペーパーグリップのみの場合は、初めは緩やかにしだいに加速して投げ出すのが良いようだ。その分、補強は少なく済むようだ。その分、風には強いように思う。しかし、フック付きの場合は、投げの出だしからいきなり加速して投げ始めるので、フック回りの補強は十二分に必要がある。フックを付ける側の全ての翼の上下をガラスクロス貼りとして、且つ、縦カーボンの補強を入れるなり十分な補強を勧める。

4. 壊さない上昇調整法

前にも書いたが、上昇パターンで ①上昇しないで弧を描いて左側に落ちるのは、ラダー面積の不足 ②いったん上昇はするが、一旦左側か右に頭を下げてから滑空に入る場合は、向角が多すぎるので減らす ③一直線に上昇、又はゆるく左旋回上昇するが、最後に突っ立つ場合は、向角不足、で増やす ④素直に上昇してトップで、すーっと右滑空に入るか、又はコロッと右に返るのがベスト

の上昇である。調整用に主翼の向角がネジで調整出来る様にする。水平尾翼で調整する場合は、効きが敏感なので可動くさびでやる方法等工夫が必要である。

最初は、とにかく相当大きめのラダーを取り付けて始める事。初めての人は出来たての機体を上昇調整で壊してしまう事が多い。壊さない方法として、最初には滑空調整はやらない事。極端な事を言うと重り無しで、上昇調整を始めても良いぐらいである。

とにかく、最初は多めの向角を付けて投げてみる事を勧める。その場合、一見ラダー面積不足と見間違ふ動きをするので挙動をよく見極める事。一応、上昇する様であれば向角を少しづつ減らす事。滑空は猛烈なピッチングをする状態より、それで上昇調整を初めて欲しい。その理由は一直線に墜落するより、滑空に入ってから大きなピッチングに入って墜落する方が機体の損害は少ないからである。あくまでも滑空は無視して、発航してからの直線上昇、又は螺旋上昇のパターンを見極める事が重要である。何回も調整して、ほぼ満足な上昇パターンになったら、そこで初めて滑空調整に入る。このやり方はパチンコの調整と全く同じである。

5. 競技機UHLGの寿命

競技機としてのUHLGは非常に寿命が短い様だ。これまでの経験からにすると、機体重量の軽減の為にソフトバルサを使うのにも関わらず、翼全体に凄い力が掛かるからだ。昨年2月に作った機体の翼が、今年3月になって2回にわたって千切れとんだ。捻りと剪断応力がかかって、バルサがグズグズになる様だ。そうになると、エポキシで接着しても無駄に様で、不安で使えない。やや堅めのバルサを使えば、少しは使用時間が長くなるものの、普通のHLGの様に10年も使えう事は、到底無理の様だ。次善の案は、翼全体にマイクロクロスを貼る事を勧める。重量はさほど増えないのに、多少の風でも問題ないぐらいに、随分と丈夫になる。しかし、最善の方法はカーボン翼の製作である。今回は間に合わなかったが、次回にはその作り方を発表したい。

6. UHLG・カーボン翼機の仕様・ヒント

*主翼 90cmスパンの機体を作る場合、重量と強度の事を考えるとカーボンDボックスを使った主翼が最適である(完成重量約45g)。翼面荷重を軽くする為に主翼面積を8.5dm²くらい採る(翼弦80~120mm)。主翼のDボックス(W35~20mm)の芯はソフトバルサで作り、それに前縁にカーボンロッド1φ、スパーにはハードバルサ(又は桧)2×4~7mmを接着して整形する。且つ、更にスパーに縦にカーボンシート(厚0.1mm)を貼る(全Dボックスの重量約30g)。後縁は0.6×2のカーボンスパーを使い、バルサリブにカーボンリブキャップをすれば、強度ガチガチの主翼が出来あがる。翼端ピンの補強部分は補強リブを多く入れてカーボンシートカバーとする。当然、旋回外翼が重くなるが旋回バランスは安全側である。表面はDボックス部分を除いてフィルム貼りとする。翼台その他は在来の材料で十分である。

*胴体 前部は桧バルサ材の混合でカーボンシート張り、テールはカーボンパイプとする。

*水平尾翼 カーボン翼にすると重いので、バルサで十分であろう。

*タイマー 機械式タイマーを搭載する事は勧めない。墜落時の衝撃に弱く、且つ、ゴミが入りやすく、直ぐ止まって始末が悪かった。

◆ 雑談天国

◆ 世界選・こぼれ話

平尾・・・⑩

これは聞いた話、聞かない話体験談ごちゃ混ぜのもの。正確さには自信がないが、いずれも十年以上過ぎていて、時効になっていると考えて発表する。

エピソード・1 ハンガリーでの交通事故の体験談で、ブダペスト郊外のドムソドで、ドルを現地通貨に替える為に銀行に行った時の出来事である。

換金が終わって銀行の駐車場が混んでいたので、バックでそこを出て道を斜めに横切っていたら、コツンと音がしたので急停車した。するといつの間にか道路反対側に、有名な東欧車トラバント(軽自動車サイズの小型車)が止まっていてぶつかった様だ。あわてて降りて確認したが、東欧にはまあまる全体が凸凹の車で、どこに当たったのか解らなかった。

日本選手団としてぶざまな事は出来ないと、運転者の中年の婦人に警察まで一緒に行くよう申し出た。欧米ではケリが付くまで決して謝るなど言われていたし、保険にすると手続きが長引く事もあり得るので、とにかく現金でケリを付ける決心で警察まで行った。

警察署では警官が出てきて、最初はマジヤール語でしゃべるが意味不明。その内にカタコトの英語になったので、事情を説明して2人で待っていた。しばらくして警官が事故確認に相手の車を見に行き、帰ってきて「どこにぶつけたのだ」と聞くので、「見て来たろう」と言う困ったような顔をした。そして多分上司と相談するべく奥に引っ込んだ。しばらくして出てきて「補修費として30ドルを婦人に払え」と言う。本当は「万歳」と叫びたかったのだが、ぐっと我慢して財布を調べると百ドルと50ドル紙幣しかない。やむを得ず50ドルを婦人に渡して、初めて「すみませんでした」と言って50ドル紙幣を渡して「迷惑をかけたので、釣りは要らない」と言った。すると教養ありそうな婦人だったが、ビックリするぐらいの微笑みに変わって、私の手を握ってお礼を言っているらしい。彼らにとってはドルは凄い値打ちの様で、しかも30ドルが50ドルになったのだから、喜んでくれたのだと思う。免許証パスポート等の確認や調書を取られた様に思うが不確かである。警察での所要時間は約30分であった。この事は当時、他の選手には内緒で帰ってきた。

エピソード・2 FF界で世界的に有名なH氏の武勇伝である。氏はなかなかの外国文化の研究者で、行った国々の市民との交流を、いつも大切にしていた。無事競技も終わって帰国の途中、やっとう透明なお湯が出る風呂と水が飲める或る首都のホテルに着いて、ほっとした夜。

氏は得意な語学(度胸があれば、外国でもたいていの事は日本語で通じる)で情報収集をして、その夜、然るべき場所に出かけた。氏は酒が飲めないのに我々が熟睡している真夜中頃までねばっていると、ようやく待っていた金髪の美女(と思われる)が現れた。氏は「来たきた」と思ってそちらをじっと見ていると、向こうもチラチラと氏を観察している様子。しばらく様子を見て確信を得た氏は、彼女の所に行き「How are you」「you are sexy, you know」「I am maney」と言ったとか言わなかったとか。英語が間違っている等と言うのは野暮の言う事、彼女にとっては実によく解ったのだから。そこには、まさしく3本足の札束が立っていたのだから。

エピソード・3

FF世界選での楽しみの1つは、Tシャツの交換である。日本選手団のTシャツは物がよいので世界的に有名である。

* ユーゴー・世界選での有名な「ハンマーと空手」のシャツの時の事である。それを着て野原にいとTシャツの後ろを誰かが引っばるので、何事かと思って後ろを見ると金髪の女性が「そのシャツを脱げ」という。野原の真ん中なのにとビックリしていると、やおら新品のTシャツを見せて「これと代えてくれ」ときた。何だなんだと思いつつも、OK, OKである。その婦人は目の前でそれを着るとトクトクして嬉しそうに歩き去った。

* 外人はなかなかしぶといので注意。競技も終わりの頃、年配のモデルが新品のTシャツを見せて、日本のと交換してくれと言う。私が今は持っていないがホテルに行けば1つだけあると言うと、彼はどうしても欲しいので夜そちらに行くと言う。

夜になって彼が来て「交換してくれ」と出したTシャツは着古した昔のやつ。この野郎と思ったが、親善のためだと思って新品のTシャツを渡すと、これではないと文句を言う。「ウインドブレーカーの約束だった」と言うのである。私もすこし頭に来て「これしか無いから、嫌なら止めろ」というと、ブツブツ言いながら新品のTシャツをしっかりと持って帰っていった。

* 案外残り物に福があるので、Tシャツ交換の本番はバンケットで狙う。そして、どうやって手に入れるかに勝負を掛ける。私のお気に入りには襟付きシャツ(ポロシャツ)で、1つはUSAの厚地の白いシャツで、胸の所に赤で「USA」と入っているだけのシンプルな物。ある選手と交渉を始めると、その選手はすぐかみさんと呼んできた。かみさんがTシャツ1枚では駄目だという。そして私が出したウインドブレーカー(白地)を見てしばらく値踏みしてから「OK」が出た。このシャツは丈夫で着やすく愛用している。他は狙うのは、赤、黄、青の色物Tシャツである。

* ユーゴー大会での夕食時、我々みんながホテルの食堂に集まっている時、隣のアメリカ選手団が一斉に立ち上がって拍手を始めた。何事かと思って入口方向を見ると、この日F1Cで優勝したランディー・アーチャー夫妻が手をつないで入ってきた。それに気が付いて、食堂にいる全員が立ち上がって拍手をした。アメリカ選手団が考えたのか本人がそうしたのか解らないが、なかなかの演出である。我々選手団は「ああんたいね」と羨ましがった。

翌日のバンケットの時に、そのアーチャー選手が日本選手団の席にやってきた。何かと思ってい

ると「若草色の日本のウインドブレーカーがどうして欲しい」と言う。しかし、私が着ているのを除いて誰も持っていない事が解ると、私と交渉が始まった。彼は「自分のは持っているが、夫婦二人そろいで着たいので、女房の分をどうしても欲しい」と言う。そして新品のTシャツを出して替えて欲しいと言う。私は「ウインドブレーカーは高いので、Tシャツ2枚でないと駄目だ」と言うと彼は困った顔をして「実はこれしか手持ちがない」と言う。それでも「2枚でないと駄目」と頑張ると彼が「申し訳ないが、あとは自分の着ている物しかない」と言う。これは一種のゲームなので「チャンピオンの汗が浸みているのだから、それでOKだ」と言う喜んで、すぐそこで着ているのを脱いで私に寄越し交換が成立した。この後、夫婦でそろいのブレーカーを着て「お披露目」に来て、みんなに挨拶をして、最後に私に握手をしてお礼を言って帰っていった。なかなかの好印象であった。アーチャーの汗の臭いはまだ手元にある。

* 最近のデザインは画一的になってきて面白くない。日本の物で私が最高だったと思うのは、世界選用ではなかったがKFCの、カラスが背中から胸に覗いていたデザインである。望ましいのは、純日本調で白黒の江戸小紋を使うとか、着物によくある片チンバのデザイン、鶴が足下から肩に掛かっているの図、及び額縁が丸ではなく4~8角の物等々を推薦したい。これまで世界選用として一番、好きだったのは田中晋氏の1991年の「ハンマーと空手」のデザインシャツであった。これは引っ張りだこで、すぐ品切れとなった。

▼ 編集後記

⑪

* 27年続けている当記録会、関西での「ウエスタンカップ」の定期開催などもあって、嬉しい事にHLG人口は最近少しづつではあるか全国的に増加しつつある。1つには紙のHLG人口の増加があるようだ。紙飛行機はスポンサーが付いているので結構盛んな様で、そちらからバルサHLGの方に誘拐するのが望ましい、と言うよりも紙飛行機に限界を感じる人達がランチャーズに来ている様だ。そして選手構成にも少しづつ若返りの兆しが出ている。先般、名古屋でも話してきたが、昔の3地区大会の復活の可能性も出てきた。

* 石山、春山の両氏が紙とバルサHLG完成調整済み機のネット販売を始めた。その勇気に敬意を表したい。FF界に完成機販売が定着して10年を超すが、HLGにもその波が押し寄せるとは……。紙HLG競技機が15,000円、UHLG競技機が3万円との事で価格的には少し高い気がするが、調整済みの完成機なので歩留まり（テスト中に損傷又は破壊すると作直し）が必ずしも良くないのでやむを得ないと思う。と同時にHLGが、これほどの値打ちがあるのかと感慨に耽った。記録会で両氏に会ったので「少し高いが・・・」と聞くと、「そんなに注文があつては困るので・・・」との事。この値段を参考にすると、記録会では皆んな10万円がこの機体を、その辺にばらまいて蹴飛ばしている事になるので、もっと大切に考えた方がよい。

完成機が売られると、吉岡氏報告のアメリカ・マックスマン競技会の様に、少年少女の参加者が増えてくる等、FF普及には効果があると思う。これを機にHLG界にも、これまでにない変化を期待してやまない。